

## 大学院入試合格体験談

亜細亜友之会外語学院

院進 C: 範思澤

こんにちは。私は範思澤と申します。日本語の勉強と修士課程入学試験の準備のため、2023年7月に亜細亜友之会外語学院に入学し、2024年2月に東京大学大学院情報理工学系研究科と京都大学情報学研究科に合格しました。合格できて、とてもうれしいです。合格までの経験と心構えを、これからこの道を歩む後輩に共有したいと思います。お役に立てれば幸いです。

私には一般の学生と異なる点があります。大学2年生の時に JLPT N1 試験に 124 点で合格し、大学3年生の時には TOEFL スコア 96 点を取りました。私と同じ経歴を持つ多くの学生は、中国で勉強を終えて直接日本に来て試験を受けることを希望します。人にはそれぞれの考えがあり、それぞれの選択をします。確かに直接試験を受けることは一見早くて便利な方法かもしれませんが、語学学校を選択して移行することも必ずしも「悪い」方法ではありません。少なくとも私にとっては、語学学校を選択したのは正しいことでした。

2023年に7月生として来日する前に、中国で東京大学大学院の五つの研究科と京都大学情報学研究科の夏期試験を受ける申請を済ませました。しかし残念ながら、合格できませんでした。学校の石川副校長と申先生は、夏の失敗を理由に私の能力を疑ったり、レベルを下げての受験を勧めたりすることなく、依然として私を慰め、励ましてくれました。後半の試験では、不安になるたびに1階に行って先生たちと話をしました。不安な気持ちが和らげて。

申先生と臧先生にははとても気楽に話しかけていただきました。先生方が時折私の感情を晴らすサンドバッグ代わりになってしまったことにとても申し訳なく思っております。聞き手になり、私のネガティブな感情を解消するのを手伝ってくれた先生にとても感謝しております。

出願、書類の準備、研究計画書の作成に関しては、志望校や研究の方向性などが明確だったので、あまり先生方に頼らずに済ませました。

しかし、自分の進路について迷ったりした場合は、大澤先生に相談することもできました。大澤先生は、熱心で慎重で責任感があります。三つの大学院進学クラスの指導をされています。さまざまな専門分野を理解しておられ、ほとんどの学生が適切なアドバイスを受ける事

ができます。学術論文や仕様についても深い知識を持っておられますので、専門用語を用いた研究計画書や小論文の指導を受ける事も可能です。

学業に直結する指導はもちろん、先生の教えをじっくり聞くと、多少は自分のやりたいことの情報を得ることができます。例えば、毎日4限の「時事が大事」では、さまざまな分野や最新の話題を多方面にわたって取り上げているので、自分が研究したい課題と先生から得た情報を組み合わせて新しいアイデアを得ることができました。今の学会で最も注目されているのは、学際的なものであり、さまざまな難解な学科はこれらの最も表面的な現象から始まることがよくあります。これらの話題と自分の専門分野を結びつけて新しいインスピレーションが湧き出ることがあり、これらのインスピレーションは研究計画書や小論文になります。

また、先生方はそれぞれ独自の指導スタイルを持っておられます。久保先生は多くの課外知識に展開するのが好きで、教科書では学べない独自の見識なども教えていただき、とても勉強になりました。日本の社会、文化、政治等様々な方面に対しての理解が深まりました。神野先生はとてもまじめに教えてくれます。問題が解決するまでは絶対に飛ばしたりしません。岩崎先生はとても優しく、理解していない点や苦手な点を丁寧に教えてくれました。また、模擬面接では面接時の注意点なども丁寧に教えてくれました。これらは受験に大きな影響を与えてくれました。自分のやりたいことがうまくいかないと感じたときは、見栄を張らずに周囲に助けを求めてください。2020年の東京大学入学式で、上野千鶴教授はこう語りました。「あなたたちが今日「がんばったら報われる」と思えるのは、これまであなたたちの周囲の環境が、あなたたちを励まし、背を押し、手を持ってひきあげ、やりとげたことを評価してほめてくれたからこそです。」言い換えれば、環境と積極的に関わり、環境に助けを求める勇気を持っていれば、亜細亜友之会外語学院もあなたを成功に導く環境の一つになると思います。

教育環境に加えて、亜細亜友之会外語学院は中国の多くの大学と連携や厳しい面接選考のおかげで、授業での学習雰囲気はとてもいいです。クラスでたくさんの「211」計画の重点大学である海南大学の学生に会えました。また、更に上位クラスの「985」大学などからも多くの学生が来ています。専攻は違いますが、優秀な学生が作り出す良い学習環境は、知らず知らずのうちに、私を伸ばしてくれるよい「仲間のプレッシャー」を形成しました。クラスでは、クラスメートの陳錦輝と王博洋は私に数学についてよく質問しました。『ファイン

マン学習法』では、他人に教える時に同時に自分自身の理解も深めることができると述べられています。クラスメート 2 人を手伝っていると、学んだことを復習できるだけではなく、時々質問されることで、理解できない部分があればどの部分が弱く、これから深める必要があるかはっきりわかりました。わからない問題があったら積極的に他人に教えてもらったり、他人の復習を手伝ったりしました。とてもよい循環が生まれ、その循環のもと、私は志望校への合格を勝ち取りました。勉強時間外では、クラスの友達と生活や娯楽の場でたくさんの交流を持ち、一緒に遊んだりして楽しい時間を過ごしました。試験のストレスや疲れも癒されました。他人とコミュニケーションをとることを恐れずに、積極的に議論し、よい競争をし、共に成果を得て、共に進歩してください。

周りの環境の影響も受けますが、自己の努力も非常に重要です。親元を離れて、一人で日本に来ているので、受験のプレッシャーに負けずに自主的に勉強し、意識的に自分を抑制しなければなりません。放課後、一人でいるときは、特に自覚と意志が重要です。受験準備をしていた半年間、私は自主的な学習能力と自己管理能力を鍛え上げました。自分で目標を設定し、それを達成するために一生懸命努力しなければいけないことを毎日自分に言い聞かせました。自分自身の怠惰や不安を意識的に克服し、自分の意志を頼りにさまざまな誘惑に打ち勝ち、自分の力で一步步目標に向かって進んでいくことで、大量の知識だけではなく成長を得ることができました。熱心に取り組む行動に加えて、自分の精神を調整することも学ばなければなりません。どんなに悪い日であっても、笑顔で明日を迎え、楽観的で、周りの人たちと前向きに接しなければなりません。これは自分自身の良い精神状態を保つのに役立ちます。夏の失敗の大きな理由の一つは、心構えでした。病的に成功を追い求めるようになり、失敗を極度に恐れたため、試験中に思わず手が震えて、ペンも持てなくなってしまったのです。その後、メンタルの調整をへて楽観的に過ごすことで、冬の試験中に自分の状態に影響を与えるような緊張感はなくなりました。

最後に私が最も重要だと思うのは、信じてやり続けることです。2022 年のリーグ・オブ・レジェンド グローバル ファイナルで優勝した後に金赫奎選手が言いました。「最も重要なのは、何度挑戦しても不屈の心です。」失敗してもしっかりと立ち続けなければならない。その確固たる目標に向かって粘り強く努力する勇気と自信を持ち、失敗による自信喪失を克服して出場した李相赫選手は何年も決勝戦から離れていたにもかかわらず、こう言うことができました。「王が絵の前に座っている場合にのみ絵の中の世界は完璧だと言える」

そして最終的に成功しました。その成功のカギは自分自身を信じることに、10年間の粘り強いトレーニングにもありました。自分が大学の門の前に立つ「王様」であると信じ、レベルを下げず、いつか大学の門の前に立って「完成」できると信じて粘り強く努力してください。水滴石を穿つ心構えで来る日も来る日もこの目標に向かって頑張ってください。日本の多くの職人は、成功とはたった一度の驚愕の瞬間にあるのではなく、部外者から見ると重要ではないと思われるあらゆる些細なことに粘り強く取り組み、それをうまくやるために最善を尽くすことにあると語ります。学習において粘り強さが最も重要であることは言うまでもありませんが、日常生活の中で粘り強く続けることも、私たちに多くの利益をもたらします。例えば、毎朝校長先生に挨拶をすることで、礼儀を意識するようになりました。また、校長先生や先生方の笑顔を見ることで、毎日前向きに頑張ろうと思えるようになりました。これを半年間毎日やり続けました。受験のプレッシャーの前でも、前向きで楽観的でいられて頑張れた私の秘訣でもあります。

半年以上の努力の結果、私と仲間たちは第一志望校に合格することができて、とても嬉しく思います。私は同じ条件の人とは違って直接受験を選択しませんでした。別の道を歩むことで、この少数派の道ならではの景色を見ることができ、またこの道でしか得られない成果を得ました。私を助けてくれた皆さんのおかげです。皆さんの応援なしではこの成果を得ることはできなかったでしょう。最後に、亜細亜友之会外語学院の野左近勇蔵校長、石川副校長、及び教員の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。そして、受験に失敗した或いは今後受験予定がある皆様、そして画面の前でこの記事を読んでいるあなたが、望む結果を得ることができるようにお祈り申し上げます。